

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 708 2026年
10月号
1部60円
友の会会員は会費に含まれています
発行 東京勤労者医療会代々木病院
院長 河邊 博正
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

戦争や被爆の記憶を風化させてはいけない

戦争を語り継ぐ会&原水禁報告会を開催

平和を考え続け、学んだことを発信していきたい

8月19日、代々木病院、代々木健康友の会主催で、毎年恒例の「戦争を語り継ぐ会」と「原水禁世界大会報告会」を多目的ルームで開催し、38名が参加しました。

戦争の悲惨さを証言で聞き、紙芝居を通じて学ぶ

第一部の「戦争を語り継ぐ会」では、最初に平和遺族会の会員で、父親を戦争で亡くされた鈴木八千代さんから戦争被害についての話を聞きました。鈴木さんは、ニューヨークで戦死した父親について母親からなんにも聞かされずに育てられました。後に、父親の戦歴を調べる中で、無謀な戦争によって壮絶な戦死を強いられたことを知り、そのことを通じて、母親が父の事や、戦争の事を語りたくなかった心情について知りまし

た。戦争遺児として、家族を不幸にした戦争の実相についての証言でした。鈴木さんは最後に、「新しい戦前」に向かう政治を憂い、「若い人を戦争に行かせない」「憲法9条を守りましょう」と平和実現への思いを語られました。

続いて、平和遺族会の渡辺さん、二瓶さん、大園さんから、二つの「平和紙芝居」を上演していました。後、父親の戦歴を調べる中で、無謀な戦争によって壮絶な戦死を強いられたことを知り、そのことを通じて、母親が父の事や、戦争の事を語りたくなかった心情について知りまし

た。戦争遺児として、家族を不幸にした戦争の実相についての証言でした。



戦争被害について、鈴木八千代さんから聞きました



紙芝居を上演する平和遺族会のみなさん

の子の像」のモデルでもあり、被爆で白血病を発症した渡辺禎子さんが、病床で千羽鶴を折り回復を祈りながら亡くなったお話「原爆の子サダ子の願い」を上演しました。参加者は紙芝居を通じて学童疎開と被爆の実相について学びました。

戦争や被爆の記憶を風化させず伝えることが必要

器のない世界、核兵器禁止条約に参加する日本を（松岡さん）、「被爆者のたたかいたその継承のために」（飯塚さん）、「反核平和の文化」（齋藤さん）で学んだこと、職員や友の会から寄せられた千羽鶴を平和記念公園へ献鶴したことなど、大会3日間の活動を報告

大会3日間の活動を報告

第二部は、原水禁世界大会（広島大会）代表の室伏紀弥さん（3階病棟）、松岡凜さん（リハビリ室）、飯塚正人さん（栄養課）、齋藤裕幸さん（友の会）から、広島大会の全体会開会集会、閉会集会、原爆資料館見学、反核・平和ペーライト集会、各分科会「気候危機・エネルギーと原発」（室伏さん）、「核兵



原水禁世界大会の報告をおこなう職員
左から飯塚さん、室伏さん、松岡さん



友の会の齋藤さんから原水禁世界大会の報告

しました。松岡さんは「戦争や被爆の記憶を風化させないために、医療職という立場も含めて、学んだことを発信していきたい」、室伏さんは「平和は誰かが守ってくれるものではなく、一人ひとりが考え、行動することです。これからは自分たちで風化させないことが、医療職として人の命や生活に関わる立場でもあるからこそ、これからも平和について考え続け、学んだことを周囲に発信していきたい」と抱負が語られました。

最後に若い職員代表参加者から「今回学んだことを自分の中だけで終わらせず、身近な人にも伝え、戦争や被爆の記憶を風化させないことが、医療職として人の命や生活に関わる立場でもあるからこそ、これからも平和について考え続け、学んだことを周囲に発信していきたい」と抱負が語られました。

生の戦争体験の話と紙芝居は直接心に響いてきた

参加者からは、戦争を語り継ぐ会での戦争体験のお話や紙芝居について、「アナログ的な人間の声と紙芝居は直接、心にひびきました」、原水禁の報告会について「若い世代の方々が、大会に参加して、良い経験になったと思う。これからまわりのみなさんに伝えていきたい」との感想が寄せられました。

千駄の萱

▼最近、生成AIの進化が目覚ましい。ChatGPTが登場した当初は、質問すれば様々な情報を調べ、それなりに実のある回答を返してくれる程度だった。ところが近頃はAIエージェントという機能が登場し、単なる受け答えにとどまらず、パソコン内での作業まで自動でこなしてくれるようになった。文章の作成から資料整理、予定管理まで任せられる場面も増え、かつてない速さで仕事の環境が変わりつつある。まさに新たな産業革命の渦中にあると言えるだろう▼一見すると正確な答えを返しているように見えるAIも、時に誤りを犯す。これを「ハルシネーション」と呼ぶそう。ある映画にこんな名言がある。「どんなに技術が進んでも、これだけは変わらない。機械を作るヤツ、整備するヤツ、使うヤツ……人間の側が間違いを起こさなければ、機械も決して悪さはしねえもんだ。技術がどれほど賢くなろうと、最後に責任を持つのは人間だ」という教訓は今も色あせない。便利なAIだからこそ、その回答をうのみにせず、真贋を見極める人間の目がいつそう大事になってくる。(て)